

「平成25年度 高齢社会フォーラム・イン東京」

開催挨拶

堀田力 高連協共同代表 「さわやか福祉財団」理事長

おはようございます。

麻田審議官よりたいへん柔らかくて味わいのある挨拶を頂戴いたしました。ありがとうございました。会場の皆さま方は、このややこしい場所をきちんと探り当てて、時間までに来ていただきました。まずもってその能力に敬意を表します。

わたしの挨拶も、見なれた顔で、何回になりますか。毎回いいたいことは同じですけど、違うようにいわなければなりませんし、ぼけてはいられません。一年一年、時代の激しい動きのなかで新しい問題、新しい対応の仕方が生まれています。これを時代に沿ってさぐりあてて運動にかえる。基本は同じです。

元気を出してやろう。それには好きなことを楽しんでやるのが一番いい。しかし本人が楽しいだけではなくて、持っているいろんな能力を社会のニーズに合わせて活かすことで、たくさんの人が喜んでくれる。多くの人が喜んでくれることで元気になれる。だから、ご同輩頑張ってください。毎回いっていることはそういうことで、それを時代に合わせて申し上げることになります。

このところ変わってきている流れは、「地域」「地域活動」であろうと思います。これまではNPOを頭に置きながら、飛び出して自分の好きなNPOを選んで、その中で自分の能力をおおいに発揮しましょう、というようなラインの話でした。NPOというのは、家から出て行って、好きな活動を見つけてそこでやる。それも大切だけれども、家のまわりでみんなと仲良くして、そこで困っている人がいたら助ける、子どもたちに元気になってもらう。地域で自分の能力を活かす。こういう流れがここ二、三年、強まっています。

NPOが必要でなくなったというわけではないですけども、NPOはだいたい出そろいました。たいへんな数です。その中にはいんちきなものが増えてきて、ここでいっぺん見直さなければいけないのかなという反省期の段階にはいつてきた。そういう外へ出て行って特定の活動をするのも大事だけれども、身のまわりどころがっているいろんな問題を地域の人たちと手を組んで解決して、住みやすい地域にする。地域で自分の能力を活かして気軽な仲間を増やしていこう。そういう「地域課題」のほうにも目をむける動きがこここのところ出てきております。

わたくしも神奈川県に頼まれて、「かながわコミュニティカレッジ」のカレッジ・マスターをやらせていただいています。マスターといっても蝶ネクタイをつけるわけではないんですけども、学長というのがいやなもので。これまでやってきたNPOの団体づくり活動とは別に、地域を温かい住みやすいものにするために地域リーダーをつくり、

運動を広める。そういうカリキュラムを入れてもらっています。地域講座を開くに当たって、最初にそういう話をいたしました。

「地域」というのがあんがい難しいんですね。きょうの分科会にもありますけれども、地域のリーダーってどんなリーダーなんだろう？ NPOの場合は夢・目的・ビジョンを持ってそれをしっかり説明して、なかまを募っていっしょにやる。そういうリーダーシップははっきりしている。では地域のリーダーは？ ビジョンを持って決めつけてもらおうと困る。地域には子どもからお年寄りまでいろんな人がいる。いろんな問題を上手に拾いあげながら、みんなで力をあわせていい地域にし、楽しい活動をする。柔軟に対応しなければいけない。この柔軟い対応、だれでも受け入れる包容力を持ってうまく力を引き出して活かしていく。

この能力はNPOのリーダーよりももっと広く、がまんづよく、人の話を聞かなければならないし、聞いてもらわなければならない。けっこう違う能力が要る。問題もこれと決めつけられない。地域、地域によってみんな違う。運営の仕方もNPOは組織として運営するやり方が決まっていてテキストもある。これも地域でみんな違う。樋口恵子先生のおっしゃる「草の根封建おやじ」が依然として地を覆っている。しかし動き出そうとしてもいるこの「草の根封建おやじ」を、放り出すのか、抱きこむのか、そのあたりの対応から考えなければいけない。

自治会の中でやるのか地域協議会でやるのか。このごろ地域協議会方式も出てきます。この地域協議会に「これ使いなさいよ」といっておかねを出してくれる行政もある。しかし何をやると決まっていない。

「地域の問題をやってください」といっても、地域の動かし方は千差万別で、もともとの古いものがありますから、これとうまく折り合いをつけながら引っ張っていく。たいへんな力が要り、やり方が決まっていない。リーダー像は幅広い人というだけ。地域の引っ張り方も組織運営のやり方もNPOとは違った柔軟な対応が要る。そこまでいかないとほんとうに温かい地域社会ができないし、そこでこそいろいろな高齢者のみなさんの力がいちばん活かせるところではなからうか。

流れは地域に向きつつある。そのなかで皆さまの持つすばらしい力を、それぞれの地域で存分に発揮してほしい。それにはどういう風にすればいいのか。そこもわたしたちが考えて生み出していかなければいけない。のんびりしているわけにはいきません。やらなければならないことはいっぱいある。みんなで頑張ってやっていきたいと思えます。

きょうはご参加ありがとうございました。